

令和5年1月29日(日)、港北防災広場において、女性消防団員の資機材取扱訓練が実施されました。内容はロープ結索と指揮本部運営でした。準備運動した後に結索訓練をグループに分かれて行いました。習得するため必死に訓練しました。ロープ結索は手順を身体で覚えるまで、身につくまでが大切です。忘れないように映像等を利用して日々の練習が大切だと感じました。

指揮本部運営は2階建ての建物火災想定で、情報収集班と本部運営班に分け、必要な情報の収集や指揮本部の運営要領を学びました。指揮本部は、災害情報の統括、部隊の放水ラインの図面作成、報道機関の対応をし、情報収集班は、視認した災害状況の報告や、危険情報の収集などを火災初期から鎮火まで実施しました。充実した訓練になりました。



『港北の消防』第68号 編集後記

新型コロナ感染拡大により思う様な消防団活動が出来なかった3年間でしたが、ようやく収束の様子を見せ始めコロナ禍前の日常を取り戻せると期待を膨らませ、気持ちも新たに新年度を迎えることができました。

「港北の消防」も今回の68号から紙面の割付変更、文字や写真の拡大、消防団関係者からのインタビュー等々、内容を大幅に変更して、新しい形での発刊となりました。

発刊にあたり記事をご投稿頂いた皆様にお礼を申し上げますとともに、今後とも「港北の消防」作成にご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

【第22期】編集委員

【本部】鈴木 基祥 (編集顧問)

【本部】齋藤 信之 (編集委員長)

【第一分団】窪倉 敏

【第二分団】峯岸 義孝

【第三分団】小泉 守

【第四分団】鈴木 智

【第五分団】酒井 誠

【第六分団】長瀬 一夫

【第七分団】西山 裕一

【第八分団】畑野 悦子

港北の消防



消防団長あいさつ

平素より消防団活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。港北消防団は、本部及び八個分団で構成され、地域の安心・安全を守っております。

私たち消防団は、火災出動のみでなく、地震や風水害といった大規模災害への対応や、応急手当の普及などのあらゆる活動を行っており、地域の重要な役割を担っております。

しかし、近年では団員数の減少等による様々な課題に直面しており、社会情勢の変化とともに変革の時期を迎えております。次代の担い手となる若年層の増員や、郷土愛にあふれた皆様のご尽力を賜り、今後起こりうる災害に備えていかなければなりません。

これからも地域の安心・安全のために、より一層組織の充実を図り、努力して参ります。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



吉田署長退任のあいさつ

飯田団長をはじめ港北消防団の皆様には、地域の安心・安全のために昼夜を問わずご尽力いただいていることに、心から感謝申し上げます。

私事ではありますが、令和4年度末を持ちまして横浜市消防局を定年退職させていただくこととなりました。

港北消防署長として3年間奉職させていただきましたが、多くの人命が奪われるような大規模災害に見舞われなかった事に安堵しています。在職期間は、新型コロナウイルスの感染拡大と時を同じくするもので、消防業務にも大きな影響を及ぼしましたが、とりわけ救急要請及び搬送困難事案の増大に対しては、区民の皆様の命を守るため、消防署一丸となり対応してまいりました。

一方で、消防団の皆様には、このような状況下で感染防止にご注意いただきながらも、火災などの災害対応をはじめとして、夏季訓練会などの各種訓練や広報活動、巡回警戒などに精力的に取り組んでいただき、消防署長として大変心強く感じておりました。地域防災の中核としての皆様の取り組みに重ねて感謝申し上げます。

結びに、港北区の安全と安心を願うとともに、港北消防団のますますの発展、そして団員の皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げ、退任のあいさつとさせていただきます。



港北消防団 団員大募集中!

今、あなたの力が必要です!!

【入団資格】 港北区内在住、在勤、在学の満18歳以上 (いずれかを満たせば入団できます。)

【報酬】 “活動に応じて支給される活動報酬”、 “年間に1回以上活動すれば支給される年額報酬” があります。

連絡先 港北消防署総務・予防課消防団係

TEL. 045-546-0119

sy-kouhokudan@city.yokohama.jp



港北消防団ウェブサイト



電子申請による入団



水村署長着任のあいさつ

令和5年4月1日付けで港北消防署長に就任しました木村です。

港北消防団の皆様には、日頃から地域での消防団活動にご尽力いただき厚くお礼を申し上げます。

大きな災害が発生すると、消防署だけでは到底人手が足りません。特に災害発生直後は、地域住民の皆さんや事業所の方々にも一緒に行動してもらわなければなりません。このような状況で、消防団は大変重要な役割を担っていただく、まさに「地域防災の要」であり、大きな期待が寄せられています。

消防団の皆様と力を合わせて、港北区の消防責任を果たしてまいりますので、温かいご助力、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



自治会・町内会での防災対策

女性として、初の港北区連合町内会会長（新吉田あすなろ連合町内会）に就任された、関 治美さんに地元での防災等についてお話を伺いました。

Q1 地元での防災に対する備えを教えてください。

近年はコロナ禍のため、町内会行事や活動が中止となっております。地域の皆様がご自宅にいる時に、各家庭での防災意識を高めていただくため、アルファ米等の備蓄食料や、トイレパック、アルミブランケット等の防災用品を配布しました。

今年度は、自主防災訓練が再開されます。住宅密集地域に設置されている初期消火箱からの放水訓練等を計画しております。

Q2 消防団に期待することがあれば教えてください。

消防団の皆様には、日頃から地域のためにご尽力いただいております。

り、安心・安全のために必要不可欠な存在となっております。

夏季の訓練会や、年末年始の特別警戒、防災拠点訓練等でお会いする機会がありますが、その他にも年間を通して多くの活動をされていることでしょうか。是非、地域の方々に消防団活動をアピールする機会を多く作っていただければと思います。



[写真] 港北区連合町内会提供

企業消防団員の活動について

昨年度、区内に所在する保育施設（トモキッズナサリー網島）から3名の方が入団してくださいました。

その中の2名（藤原団員、永山団員）から入団に至った経緯と、実際に団員として活動してみた感想を伺うことができました！



経緯

《藤原団員》地域防災拠点訓練に参加した際に声をかけていただきました。

保育施設で働くうえで、子どもたちの身に何か起きた時、自身が何もできないと不安になりました。消防団に入団して、消火・救護・通報など実践的な技術を身につけたいと思いました。

《永山団員》網島消防出張所の所長から、入団についてご案内がありました。藤原さんが消防団員だったこともあり、入団を決断しました。子どもたちに何かあった時に、すぐに対応できるように、そして、園としても近隣の方々に関わりを持ってほしいと思いました。

活動してみた感想

《藤原団員・永山団員》コロナウイルスの影響で、まだ数回の訓練しかできていませんが、消防署との連携が密になったと思います。特に、救急や、地震時等の避難方法について相談しやすくなったり、顔が見える関係になり安心できるようになりました。

今後は、女性だからこそできる活動や、災害時に自分たちで行動できる知識と経験を積んでいきたいです。

「専科教育機関科講習を終えて」

第二分団 第5班 渡辺 信也

港北消防団では、機関員としての知識・技術を身に着的けるために機関科講習を実施しています。内容は可搬式ポンプ、積載車運用に関する座学と実技が行われます。

座学では、緊急自動車運転の心構えや、可搬式ポンプの構造等について学び、実技では、仮設コースを実走しました。積載車は普通車とは運転の感覚が異なり、全長や全幅、ドライビングポジション等の違いを強く意識させられました。

運転時には、フェンダーミラーの活用やコメントリードライブが大切だと感じました。機関員だけでは気付きにくい死角等を同乗者やミラーが補い、相互にコミュニケーションを取ることで積載車のような大きな車両であっても安全に運行できるということを実感できました。



「新綱島駅NBC災害対応訓練」

第四分団 第2班 池谷 晃麻

令和5年3月に開業された、東急新横浜線新綱島駅において、NBC 災害対応訓練が行われた（訓練実施は開業前）。今回は、港北消防署本署部隊、綱島特別救助隊及び日吉消防隊と連携しての訓練だった。駅構内でのNBC災害発生を想定し、安全確保、救護活動、避難誘導、備品の使用方法などの確認を行う。まず現場ではゾーニングと呼ばれる区域の指定をする。感染や汚染がさらに広がらないように二次災害を防ぐためだ。

私たち消防団員は出入口への避難誘導とホームでの救護活動を二手に分かれ行った。軽症の乗客は付き添ったりしながら駅構内から屋外へ避難させる。ホームでは仮救護所を用意し重傷者の手当てを実施して、心肺停止状態の乗客には、心肺蘇生措置。交代しながら胸骨圧迫をおこなった。



「文化財防火デー」の消防訓練

第七分団 第3班 平等 真琴

令和5年1月26日(水)、西方寺にて「文化財防火デー」期間中の消防訓練が実施されました。

新型コロナウイルスの影響により3年ぶりに実施されることになったのですが、数日前から十年に一度の大寒波が日本列島を覆うという報道があり…前日の夜には雪混じりの強風が吹き荒れていました。しかし、訓練当日は快晴に恵まれ安心しました。

今回は、お寺の本堂に向けての放水訓練が行われます。こちらのお寺にはいくつもの文化財が保管されており、屋根は今では珍しい茅葺きとなっております。

私は、放水補助員として活動しました。マスクを着用した状態での活動で眼鏡が曇ってしまいましたが、無事に終えることができました。

私たちは、文化財だけでなく身近にある大切なものを事前にチェックして、火災時にはすぐに避難できるようにしておく必要があると感じました。

